

## 多職種連携



薬局長  
大澤さん  
広島国際大学出身  
(2016年入社)



【 Dr. × 薬剤師 】

【 症例 × 薬 】

## 専門家同士の得意領域 本気・本音の話し合い

カンファレンスや合同勉強会の定期実施。プロが肩を並べて意見を出し合うことで、治療方針や意図、患者さまの院外の様子が共有できる。患者さまにとってどんな治療が最適なか、医師と薬剤師が各々の得意領域を通して本気・本音で意見交換する事で、お互いの役割を最大限発揮出来ています。

**Q** 薬局として医師と連携をとるメリットを教えてください。



患者さまの治療に対する満足度アップにメリットを感じます。薬剤師は医師からの指示を受けるだけではなく、患者さまの服薬状況に合わせて「患者さまがより利用しやすい服薬方法」を医師に提案できるんです。医師との関係性が出来上がると実現度も上がります。その結果、患者さまにも喜んでもらえます。

**Q** 患者さまの様子を見て、「地域に貢献できている」と思うポイントを1つ教えてください。



「利便性の高さ」ですね。薬を取りに行っている間に必要な買い物を済ませることができる。一見普通なことに見えて実は特別なんです。高齢の方や若い方でも不調の時にはあちこち飛び回る身軽さはなくなります。一箇所で必要な物が揃うことは貢献できるポイントです。

私も同様に「利便性」です。ドラッグストアは生活便利店。病気をしていなくても普段からご利用のお客が多いじゃないですか。いざ病気になった時、慣れない場所へ行くのは不安になります。通い慣れた行動範囲の中に利用できる病院があるのは、安心に繋がりますよね。



**Q** お二人が考える「これから目指す地域医療」を教えてください。

「なんとかしてあげたい」んです。患者さまの中には、病気が治りきらず症状が残り続ける方もいます。地域と連携し患者さまを支え合うことで治療の満足度を高めることが出来るんです。協力し合うことこれからの地域医療の可能性を感じますね。



「クリニックだけでなく大きな病院」、「医者だけでなく看護師」、「患者さまだけでなく患者さまのご家族」。患者さまを中心に周囲の関係者が手を取り合って患者さまを支える。そうすることで患者さまの満足度が上がると思うんですね。そのためにはまず私たちが深く連携し合い「協働」する。それぞれの立場を活かし合うことがこれからの地域医療を盛り上げていくと考えます。

## Dr. Interview



安佐南内科  
リウマチ科クリニック  
舟木 将雅 院長